

Profile



© Christian Steiner

ジョージ・リー (ピアノ) *George Li, Piano*

「驚異的なテクニック、深い洞察力と表現力」
—— ワシントン・ポスト紙

ジョージ・リーは、華麗なヴィルトゥオーゾと年齢離れた天性の優雅さを併せ持ったピアニストである。2015年のチャイコフスキー国際コンクールでシルバー・メダル(第2位)を受賞したほか、2014年、パリで行われた第16回グランプリ・アニマート国際コンクールで優勝。2012年にはギルモア・ヤング・アーティスト賞を受賞するなど、多くの賞を受賞している。2015/16年シーズンは、北米でフェアファックス交響

楽団、オールバニ交響楽団、ウィリムズバーグ交響楽団、ペンシルベニア・シンフォニア、ウィンザー交響楽団などと共演するほか、ルーブル美術館(パリ)、リヨン、サンクトペテルブルグなどでリサイタルを行う。2016年3月活躍が期待される若手演奏家に贈られるエイブリー・フィッシャー・キャリア賞が授与された。

昨シーズンは、ニューヨークのアリス・タリー・ホールにデビューし、ジェラルド・シュワルツ指揮/セントルークス管弦楽団とチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番を演奏したほか、リッチモンド、ヒルトン・ヘッド、エドモントンの各交響楽団やボストン・フィル、ノルウェー室内管、ノールショッピング交響楽団などと共演。マイアミ国際ピアノ・フェスティバル、ギルモア国際キーボード・フェスティバルなどでリサイタルを行った。

2010年にヤング・コンサート・アーティスト国際オーディションで優勝し、16歳でニューヨーク、ワシントンDCにデビュー。これまでにクリーヴランド管弦楽団、シモン・ボリバル・ユース・オーケストラ、ゲルギエフ指揮/マリンスキー歌劇場管弦楽団などと共演したほか、ベンジャミン・ゼンダ指揮/ニューイングランド音楽院ユース・オーケストラのヨーロッパ・ツアーに参加した。今後は、ホーネック指揮/ハンブルク・フィル、イヴァン・フィッシャー指揮/ブダペスト祝祭管弦楽団、ガフィガン指揮/ルツェルン交響楽団との共演、またグラーフエン、エジンバラ、ラヴィニア、ヴェルヴィエなどの国際音楽祭にも次々と出演する予定である。

ジョージ・リーは、10歳のときボストンのスタインウェイ・ホールで初リサイタルを行った。ウォールナット・ヒル芸術学校で学びながら、ニューイングランド音楽院でファ・キョン・ビュンにピアノを師事。現在はハーバード大学とニューイングランド音楽院の共同プログラムで、引き続きファ・キョン・ビュンに学んでいる。

2016年日本公演スケジュール

6月1日(水)	武蔵野	武蔵野スイングホール	主催:(公財)武蔵野文化事業団
6月4日(土)	大阪	ザ・シンフォニーホール (テミルカーノフ指揮 サンクトペテルブルグ・フィルハーモニー交響楽団との共演)	主催:朝日放送
6月6日(月)	東京	浜離宮朝日ホール	主催:朝日新聞社、ジャパン・アーツ

ジョージ・リー

ピアノ・リサイタル

George Li Piano Recital

2016年6月6日(月) 19:00 開演

浜離宮朝日ホール

7:00p.m. Monday, June 6, 2016 at Hamarikyu Asabi Hall

主催:朝日新聞社 ジャパン・アーツ



Program

F. J. ハイドン：ピアノ・ソナタ ロ短調 Hob. XVI: 32, L. 47

F. J. Haydn: Piano Sonata in B minor Hob. XVI: 32, L. 47

ショパン：ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 Op. 35「葬送」

Chopin: Piano Sonata No. 2 in B-flat minor Op. 35 "Funeral"

ラフマニノフ：コレッリの主題による変奏曲 Op. 42

Rachmaninoff: Variations on a Theme of Corelli Op. 42

リスト：コンソレーション 第3番 変ニ長調 S. 172/3

Liszt: Consolation No. 3 in D-flat major S. 172/3

リスト：ハンガリー狂詩曲 第2番 S. 244/2

Liszt: Hungarian Rhapsody No. 2 S. 244/2

当初予定しておりましたプログラムから、変更がございます。何卒ご了承ください。

Program Note

原 明美 (音楽評論家)
Akemi Hara

F. J. ハイドン：ピアノ・ソナタ ロ短調 Hob. XVI: 32, L. 47

ウィーン古典派の基礎を築いた作曲家として名高いフランツ・ヨーゼフ・ハイドン(1732-1809)が、鍵盤楽器のために残したソナタは、実数は確定されていないが、現在では約60曲の作品が知られている。これらのソナタは、A. v. ホーボーケンによる作品目録においてHob番号で整理されている他、H. C. R. ランドンが校訂したウィーン原典版による番号でも流布している。

ホーボーケン番号で第32番(Hob. XVI: 32)、ウィーン原典版では第47番とされるロ短調のソナタは、1776年に出版された6曲のソナタ集に含まれることから、作曲年代は1776年以前と推定されている。曲は3つの楽章から成るが、緩徐楽章を欠く点が特色の1つとなっており、その代わりにメヌエット楽章が置かれている。

第1楽章：アレグロ・モデラート。ロ短調、ソナタ形式。

第2楽章：メヌエット ～ テンポ・ディ・メヌエット。ロ長調、3部形式。

第3楽章：フィナーレ ～ プレスト。ロ短調、ソナタ形式。

ショパン：ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 Op. 35「葬送」

ポーランド出身のフレデリック・ショパン(1810-49)の作品は、大半がピアノ曲であり、その天才的な創作力から数々の名作が生まれ出された。ピアノ・ソナタについては3曲残されており、1839年に完成された第2番は、「葬送」または「葬送行進曲つき」と呼ばれる。幅広い表現が盛り込まれ、古典的なソナタの伝統を打破するような大胆な主張が目されるこの曲は、4楽章から成るが、第3楽章の葬送行進曲だけが先に作られており、この悲痛な楽章をもとに全曲が構想されたと考えられている。

第1楽章：変ロ短調。楽章全体の暗く不安な気分を集約したような、グラーヴェの序奏に始まった後、「ドッピオ・モヴィメント(2倍の速さで)」と指示された主部に入り、ソナタ形式で展開する。

第2楽章：スケルツォ。変ホ短調、3部形式。不気味な雰囲気の主部と、明るく甘美な中間部から成り、最後に中間部の楽想が回想される。

第3楽章：レント、マルシュ・フュネーブル。変ロ短調、3部形式。単独でも有名な葬送行進曲。暗く重苦しい葬送の行列が表現される。中間部では、天上の音楽のような美しい旋律が現れる。

第4楽章：フィナーレ ～ プレスト。変ロ短調。わずか75小節のなかに、調があいまいな響きなど、時代を先取りする書法が含まれ、きわめて独創的なフィナーレ。

ラフマニノフ：コレッリの主題による変奏曲 Op. 42

ロシア出身の作曲家セルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)は、ピアニストとしても国際的に活躍した。1918年の末にアメリカに渡ってからは特に、欧米での演奏活動に忙しかったが、何度かまとまった休暇をとり、その間に集中的に曲を作った。「コレッリの主題による変奏曲」は、1931年に完成され、彼自身のピアノで初演されている。

この変奏曲の主題は、アルカンジェロ・コレッリ(1653-1713)の「ソナタ集」Op. 5の第12曲「ラ・フォリア」から採られたが、これは、他の多くの作曲家たちも用いている古いポルトガル起源の舞曲であって、コレッリの作った主題というわけではない。その有名な主題(アンダンテ、ニ短調)のあとに、20の変奏が繰り広げられ、ピアニストとしても活躍したラフマニノフらしい技法が、さまざまな形で盛り込まれている。

リスト：コンソレーション 第3番 変ニ長調 S. 172/3

ハンガリー出身のロマン派の作曲家フランツ・リスト(1811-86)は、超絶技巧を操る名ピアニストでもあった。1849～50年に作曲され、全6曲から成る「コンソレーション」は、ロマンティックで甘美な楽想が印象的な、愛らしい小品集である。標題は、「慰め」を意味するフランス語「コンソラシオン」であり、サント・ブーヴの詩集に由来しているという。今回演奏される変ニ長調の第3番は、単独でも有名な1曲である。

リスト：ハンガリー狂詩曲 第2番 S. 244/2

リストが、1839～47年に書きためていた「ハンガリーの民族的旋律」をもとに作曲した「ハンガリー狂詩曲」は、全部で19曲が残されており、その第15番までは1846～52年ごろの作と推定されている。各曲は、ハンガリーの舞踊音楽「チャールダーシュ」の形式に従い、遅く荘重な「ラッサン」の部分と、速いテンポの激しい「フリスカ」の部分を中心に構成されている。なかでも第2番は特に有名で、オーケストラ版でも親しまれている華やかな曲である。